

# ふるさとファイル

展示コーナーだより  
第9号

平成15年2月  
長岡京市立図書館

## おふれがき

市内の古文書調査を行うと、実にさまざまな史料に出会います。村に届いたたくさんの「御触書」の写しもその代表的なものです。この地域に伝わる江戸時代の「御触書」や明治初めの「御布告」とおして、江戸時代の支配のしくみや時代の変化をみてみましょう。

展示期間：2月4日(火)～3月30日(日) \*3月4日から展示替

### ●「触」と「御触書」

「触」とは本来法令などを広く知らせることで、**「御触」**、あるいは**「御触書」**とよばれて法令そのものをさしました。「御法度」(ごはつと)もほぼ同じように使われましたが、禁令の意味がより強くなります。

### ●村々を回るお触れ

江戸幕府からだされた御触書は、京都町奉行所配下の役人をおして村々を回りました。村の庄屋はそれらを書き留め、代々保管したのです。

### ●「読み聞かせ」と「村の誓約」

御触書を徹底する方法としてとられたのが、庄屋が村人を集めて読み聞かせるという方法です。場合によっては「御公儀様の御触書」を守ることを村中が誓約した「請状」(うけじょう)が作成されることもありました。



古市村の「御触書写留帳」(奥沢康正氏収蔵文書)



### くわしく調べよう

『長岡京市史』本文編二

京都支配や触の伝達のしくみ、公儀法度と村掟のかかわりなどが具体的にわかります。

『日本の近世』藤井讓治編 中央公論社  
幕府の支配の立場から、近世の「法度」の性格と実態を追っています。

『日本の江戸時代』田中圭一著 刀水書房  
幕府から出された「御触書」をどのように解釈するのか、百姓の立場から考察しています。

\*平成一三年には、今里の郷倉からも、定札三枚がそろって発見されました。



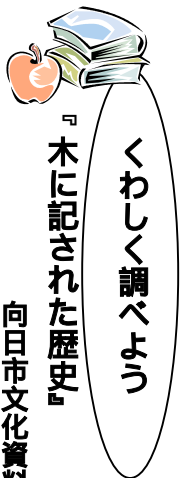
長法寺の「五榜の掲示」(平成11年)  
定札3枚のうちの2枚です

## ● 最後の高札

御触書を徹底するため、読み聞かせのほかにもう一つ、高札を掲示するという方法がありました。高札は大きな文字で、仮名を多く使い、庶民にわかりやすいように書かれています。村の高札場や高札は厳重な管理が求められ、奉行所の取り調べがたびたび行われました。

時代は移って明治維新。新政府は慶応4年(1868)3月、旧幕府の高札を撤去し、かわりに「五榜の掲示」とよばれる太政官の高札を掲げることを命じました。長法寺や今里にはこのうち定札(3枚で1セット)とよばれるものが伝わっています。

しかし、永年掲示とされたこの高札は、早くも明治6年には撤去され、高札による法令の公布は以後行われることはありませんでした。



『木に記された歴史』

向日市文化資料館

江戸時代の高札や「五榜の掲示」について、京都府下の資料を集めてわかりやすく解説しています。

### 展示資料

#### ■ 2月4日(火)～3月2日(日)

村から村へ触を回覧するさいに出された受取状や、「御触書写留帳」など。

#### ■ 3月4日(火)～3月30日(日)

明治初めの「御布告書写帳」や、「違式註違(かいい)条例」(明治政府の軽犯罪取締まり規定)の普及版など。



## ふるさとワーク(古文書の輪読会) 変体仮名を読もう!

神足村の記録に写されている御触書を読みます。庶民の間で広く使われた変体仮名をマスターしましょう。この伝統は今のくらしにも残っていますね。

(左はわりばしの紙袋。お馴染みのことばですよ)

2月22日(土)

3月22日(土)

\*時間

午前10時～正午

\*場所

図書館3階大会議室